中学校２年　英語　調査結果の考察

（１）設定通過率との比較　　※表中の数値は設問数

分類 ＼ 設定通過率の	観点別			領域別			計
	表現の能力	理解の能力	知識・理解	聞くこと	読むこと	書くこと	
＋10％ より高い	0	1	0	0	1	0	1
±10％ の範囲内	1	8	4	6	3	4	１３
－10％ より低い	3	2	1	1	2	3	6
計	4	１１	5	7	6	7	２０

（２）考察

①　全体について

ア　「知識・理解」の学習状況は、おおむね良好である。

イ　「表現の能力」及び「理解の能力」においては、良好であるとはいえない。

②　成果

ア　日常の指導により、「聞くこと」「読むこと」の学習状況は良好である。

イ　「書くこと」においても、改善が認められる。

③　課題

ア　「聞くこと」において、質問などに対して適切に応じる力が十分身に付いていない。

イ　「聞くこと」「読むこと」において、大切な部分を聞き取ったり読み取ったりする力が十分身に付いていない。

ウ　「書くこと」においては、特に時制に注意しながら、疑問文やその答となる文を文法に従って正しく書く力が十分身に付いていない。

（３）今後の指導

ア　日常生活の中で、相手の意図を正しく理解し、適切に応じることができるように指導を工夫する。

・同じ言葉や表現であっても、場面によって意味が違うことを、知識として理解させるだけでなく、日々の授業の中で実際に数多く体験させることが必要である。

・例えば、Do you have a pen? という表現は、教師が自分のポケットを探しながら生徒に聞けば文字通りの意味になるが、教師が大事な説明しているときにメモを取らないでいる生徒に聞けば You should take a note. の意味にもなることを体験させたい。

イ　目的をもった聞き取りや読み取りがなされるよう、指導を工夫する。

・例えば「～したのは誰か」と聞き取りや読み取りのポイントを事前に与えるなど、適切な聞き取りや読み取りができるよう指導を工夫する。

ウ　正しい語順や語法を用いて文を「書くこと」ができるように指導を工夫する。

・「１日１文３単語」運動を引き続き推進し、正しい語順や語法を身に付けさせる。

・どのような文法事項を活用すればどんな気持ちを伝えることができるかなどについて、日々の授業の中で実際に数多く体験させる必要がある。例えば、不定詞を学習したら、Why の疑問文に対して理由を答える際に実際に使用させたい。

・昨年度に引き続き、英文の主語や目的語、あるいは場所や時を表す副詞句を尋ねる場合の疑問文の作り方を繰り返し練習させ、定着を図る。特に、過去時制を練習させたい。

※実際の指導例：(11

> はじめに、次の質問に関連する部分にマーカーを引きながら、教科書本文を読みなさい。
> ①久美は誰と話しをしているか　②話の内容は何か　③その後、どこへ行ったか
> 次に、①～③について読み取った内容を、隣の友達に英語で説明しなさい。
> Kumi is talking with Sam.　They are talking about their favorite sports. ～

※実際の指導例：(14、(15

> 次の下線部①～④をそれぞれ尋ねる疑問文を書きなさい。
> ①Tom went ②to the station ③yesterday ④to meet his friend.
> (例) ①を尋ねる疑問文：Who went to the station yesterday? 答え：Tom did. など